

令和元年6月24日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H01884

研究課題名(和文) 読解コーパスの構築による日本語学習者の読解過程の実証的研究

研究課題名(英文) Study of Reading Comprehension Process of Japanese Learners and the Corpus of the Reading Comprehension Process

研究代表者

野田 尚史(Noda, Hisashi)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・教授

研究者番号：20144545

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,900,000円

研究成果の概要(和文)：さまざまな日本語学習者を対象に、日本語を読んで理解した内容やわからないことを母語で話してもらう調査を行った。その結果を「読解コーパス」として公開するとともに、その結果からたとえば次のような点を明らかにした。

- (1) 文字の認識、語句の理解、文の構造の理解、文脈との照合などの面で多くの学習者にとって理解が難しいパターンがある。
- (2) 学習者はわからない部分があるとさまざまな推測を行っているが、その推測が成功しているときと失敗しているときがある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本語学習者の習得研究は、「話す」「書く」「聞く」「読む」の中では「話す」「書く」という産出面の研究に偏っている。「聞く」「読む」という受容面の研究は、「話す」「書く」という産出面に比べると、大きく遅れている。

本研究は、研究が遅れている受容面の「聞く」「読む」のうち「読む」に焦点を当て、日本語学習者の読解過程を調査し、そのデータを読解コーパスとして公開し、読解過程をさまざまな角度から分析するものである。その成果を応用すれば、有用な読解教材が作れるようになる。

研究成果の概要(英文)：In this study various Japanese learners were asked to read Japanese texts and describe in their native language what they did and did not understand. The data collected are published as the 'Corpus of the Reading Comprehension Process'. From the corpus, we found the following:

1. Learners had difficulty in recognizing letters, understanding the meaning of words and phrases, understanding the sentence structure, understanding the context etc.
2. Learners use various prediction strategies when they encounter difficulties. Sometime they work and sometimes they do not.

研究分野：日本語教育

キーワード：読解 日本語学習者 コーパス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

言語習得研究は、日本語だけでなく他の言語についても、4技能と言われる「話す」「書く」「聞く」「読む」の中では「話す」「書く」という産出面の研究に偏っている。「聞く」「読む」という受容面の研究は、「話す」「書く」という産出面に比べると、大きく遅れていた。

誰でも使える研究データであるコーパスも、日本語学習者の会話コーパスや作文コーパスは国内外でいくつも作成され公開されていたが、聴解と読解に関してはまったく作成されていなかった。これは日本語学習者のものだけでなく、英語学習者や他の言語の学習者のものについても同じであった。

本研究は、受容面の「聞く」「読む」のうち「読む」に焦点を当て、日本語学習者の読解過程を調査し、そのデータを読解コーパスとして公開し、読解過程をさまざまな角度から分析する目的を持ったものであった。読解コーパスを公開し、読解研究の一つのモデルを示すことができれば、読解研究が盛んになり、その成果を応用してより有用な読解教材も作れるようになると考えたからである。

2. 研究の目的

本研究を行う目的は、(1)と(2)の2点である。どちらも海外でもあまり例がない先駆的なことである。

- (1) 読解コーパスの構築：日本語学習者に自分が日本語で読む必要があるものや読みたいものを読んでもらいながら、同時に、理解した内容やわからないことなどを自分の母語で話してもらい、質問にも答えてもらう。そのデータを大量に集めた読解コーパスを構築し、誰でも無償で学習者の読解過程のデータを見て独自の分析ができるようにする。
- (2) 読解過程の実証的な分析：読解コーパスのために収集された大量の読解過程のデータを、テキストの違いや、学習者の日本語レベルや母語による違いなどを含め、さまざまな観点から分析する。それによって読解研究の一つのモデルを示すとともに、その研究成果を応用して、より有用な読解教材の開発にも貢献できるようにする。

3. 研究の方法

日本語学習者の読解困難点・読解技術を明らかにする調査を、基本的に発話思考法(Think-Aloud Protocols)で行う。ただし、学習者の発話だけでは学習者の読解過程が詳しくわからないことが多いため、調査者が読解の途中で、正しく理解されているか、そう理解した根拠は何かといった質問を積極的に行う形で調査を行う。

上級日本語学習者に学术论文を読んでもらう調査を例にすると、具体的には次の(3)から(5)のような方法で調査を行う。

- (3) 日本語学習者一人ひとりに、自分の研究のために読む必要がある学术论文を選んでもらい、その論文を読んでもらう。
- (4) 普段どおりに辞書やパソコンを使いながら読んでもらい、読みながら考えたことや理解できないところなどを話してもらう。
- (5) 日本語学習者に内容理解を確認するための質問を行う。必要に応じて、専門分野についての既有知識の有無などの確認も行う。

調査は、学習者の日本語のレベルを問わず、基本的にその人の母語か母語に準じる言語で行う。

4. 研究成果

研究成果は、(6)から(8)の3点である。

(6) 「日本語非母語話者の読解コーパス」の構築と公開

(7) 日本語学習者の読解困難点の解明

(8) 日本語学習者の読解における推測の解明

最初に、(6)の「日本語非母語話者の読解コーパス」というのは、前の3.で述べた研究方法によって収集したデータを誰でも無償で利用できるようにネット上に公開したものである。この読解コーパスに掲載されているデータは(9)のとおりである。

- (9)a. 学習者が読んだもの
- b. 学習者の理解のしかた
- c. 学習者の属性・能力

(9)a.の「学習者が読んだもの」というのは、(10)のような学習者が読んだテキストである。

(10) 政治の動乱の時代に非常に個人主義的な作風にまい進する悩みなどは映像には描きづらいのだろう、全体としては作家としての彼女より、複数の男性との愛情と貧困と病気に悩む姿を中心に描いていた。

(9)b.の「学習者の理解のしかた」というのは、(11)のような学習者がどう理解しかたを自分の母語で語った発話と、(12)のようなその日本語訳である。

- (11) 嗯嗯嗯，在电影里面呢，对那个一政治动乱期一，它一，嗯嗯，我这句话重新组织一遍。嗯嗯，在这个，在当时那个政治动乱的时期，嗯嗯嗯，ひ[呷く]，它这个非常的个人主义的作风[「作风」という表現は中国語では「仕事や思想上のやり方や態度」などを表す。日本語の「作風」は中国語で「作品的风格」

と言う]指的是萧红嘛?スススー[息を吸う],嗯嗯嗯,可能说的是萧红吧。[後略]
(12) んんん,映画の中では,その一政治動乱期-に対して,それ-,んん,この言葉はもう一度組み立てます。
んん,ここで,当時その政治の動乱の時期に,
んんん,ひ[呟く],それこのとても個人主義の態度が指すのは蕭紅ですか。スススー[息を吸う],んんんん,蕭紅のことを言っているかもしれません。[後略]

(9)c.の「学習者の属性・能力」というのは、「読むのにいちばん得意な言語」や「日本滞在歴」「取得している日本語試験の資格やレベル」「見て意味がわかる漢字の数」など、学習者のさまざまな情報である。

次に,(7)の「日本語学習者の読解困難点」としては,たとえば中国語を母語とする上級日本語学習者を対象にした調査結果の分析から,(13)から(16)のような読み誤りをするを具体的に明らかにした。

- (13) 語の意味理解に関する読み誤り:個々の漢字の意味から語の意味を不適切に推測したり,辞書に載っている複数の語義から不適切な語義を選んだりする。
- (14) 文構造のとらえ方に関する読み誤り:文のどの部分がどの部分を修飾しているか,文のどの部分とどの部分が並列されているかということ適切にとらえられない。
- (15) 文脈との関連づけに関する読み誤り:省略されている語句を文脈から適切に特定できなかったり,照応先の語句を文脈から適切に特定できなかったりする。
- (16) 背景知識との関連づけに関する読み誤り:論文の文章構成や本文の記述内容に関して自分が持っている背景知識と本文との関連づけが適切にできない。

最後に,(8)の「日本語学習者の読解における推測」としては,たとえばヨーロッパの言語を母語とする初級・中級日本語学習者を対象にした調査結果の分析から,学習者は知らない語句や理解できない文があると,(17)から(22)のような推測をするを具体的に明らかにした。

- (17) 個々の漢字の意味や外来語の音声から知らない語句の意味を推測する。(例:辞書で見つけられなかった「自習」の意味を、「自」と「習」の意味から「自分で学習すること」と推測する。)
- (18) 前後にある語句から知らない語句の種類を推測する。(例:「明るく積極的な方」の「積極的」の意味を、「明るい」とナ形容詞の語尾「な」と「方」から「どんな人かを表す語句」と推測する。)
- (19) 語句のつながりの悪さから修辭的表現だと推測する。(例:「合間を縫う」の意味を、「合間」と「縫う」のつながりの悪さから修辭的表現だと考えて辞書を引き、「時間を調整する」と推測する。)
- (20) 助詞や助動詞などからわかりにくい文の意味を推測する。(例:「親に「...」と言ってテニスを選んだ」の意味を「親を選んだ」と理解したが、「親に」の「に」に気づき、「親ではなく自分が選んだ」と推測する。)
- (21) 前後の語句から重要な情報かどうかを推測する。(例:「~ためには、~を受け、かつ、~を~で行う必要があります」の「かつ」の意味を、前後の内容からあまり意味がない語句だと推測する。)
- (22) 文脈から知らない語句やわからない文の意味を推測する。(例:「畳」の意味を辞書で調べて広さを表す助数詞だと理解したが、文脈に合わないので辞書を引き直して「タタミ」と推測する。)

このような研究成果により,学習者が日本語の文章を適切に理解するためには従来の日本語教育で扱われてきた語彙や文法だけでは十分でなく,それぞれの文章で使われる独特の語彙の知識や,複雑な文の構造をとらえる「読むための文法」,さまざまな推測能力などが必要なることが明らかになった。

研究成果は,国内外の学会で研究発表を行い,国内外の学会誌等に論文を発表した。その結果,国内外でこのような読解研究の重要性が理解されるようになってきており,日本語学習者の読解についての招待講演等を依頼されるようになってきている。

なお,現在,論文集『日本語学習者の読解過程』を編集中であり,2020年にココ出版から刊行される予定である。

今後は,収集されたデータでまだ文字化や翻訳,整形が終わっていないデータを公開するための作業を進め,順次公開していく。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計24件)

野田尚史「日本語教育はどのように新しい日本語文法研究を創出するか 「聞く」「話す」「読む」「書く」ための文法の開拓」『日本語文法』18巻2号,pp.45-61,日本語文法学会,2018年.[査読あり]

野田尚史・穴井宰子・中島晶子・白石実・村田裕美子「ヨーロッパの日本語学習者に有益な読解教育」『ヨーロッパ日本語教育』22,pp.218-236,ヨーロッパ日本語教師会,2018年.[口頭発表時審査あり][<https://eaje.eu/pdfdownload/pdfdownload.php?index=234-251&filename=panel-noda-anai-nakajima-shiraishi-murata.pdf&p=lisbon>]

桑原陽子「非漢字系中級学習者の論文読解における語の意味理解に関する読み誤りの分析
教育実践論文の読解プロセスの観察データから」『国際教育交流研究』2, pp.25-36, 福井
大学国際センター・語学センター, 2018年.[査読あり]

野田尚史・花田敦子・藤原未雪「上級日本語学習者は学術論文をどのように読み誤るか 中
国語を母語とする大学院生の調査から」『日本語教育』167号, pp.15-30, 日本語教育学
会, 2017年.[査読あり]

野田尚史「中国語話者の日本語読解 調査方法と調査結果」『中国語話者のための日本語
教育研究』第8号, pp.1-15, 日中言語文化出版社, 2017年.[招待, 査読あり雑誌]

[学会発表](計53件)

野田尚史「日本語学習者の読解コーパスの調査方法と分析結果」, 講演会・ワークショップ
「日本語非母語話者の読解コーパスからわかること(国際基督教大学グローバル言語教育研
究センター主催), 2019年.

野田尚史「非漢字系日本語学習者の読解教育」, 西日本短期大学別科日本語研修課程10周年
記念講演(福岡), 2018年

野田尚史・村田裕美子・中島晶子・白石実「ヨーロッパの日本語学習者の読解における推測
ストラテジー」2018年日本語教育国際研究大会, 2018年.

野田尚史「実践的な日本語読解 ウェブサイトの読解を例にして」, 南京農業大学人文社
会科学学部外国語学院日語系講演会, 2017年.

田川麻央「内容理解を目的とした読解過程でのストラテジー使用 日本語中上級学習者を対
象に」, 第48回日本語教育方法研究会, 2017年.

[図書](計7件)

野田尚史(編)『日本語学習者の読解過程』ココ出版, 2020年(予定).

野田尚史・迫田久美子(編)『学習者コーパスと日本語教育研究』くろしお出版, 202pp., 2019
年.

野田尚史「聴解・読解における日本語のバリエーションの難しさ」, 大島弘子(編)『フラン
ス語を母語とする日本語学習者の誤用から考える』pp.1-19, ひつじ書房, 2018年.

野田尚史「非母語話者の日本語理解のための文法」, 庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己(編)『日
本語文法研究のフロンティア』pp.307-326, くろしお出版, 2016年.

館岡洋子・于康(編)『日語教学 研究方法と応用』(日本語教育基礎理論と実践シリー
ズ), 382pp., 高等教育出版社(中国), 2015年.

[その他]

ウェブサイト「日本語非母語話者の読解コーパス」[[https://www2.ninjal.ac.jp/jsl-rika
i/dokkai/](https://www2.ninjal.ac.jp/jsl-rika/i/dokkai/)]

6. 研究組織

(1) 研究分担者

迫田 久美子 (SAKODA, Kumiko)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・客員教授
研究者番号: 80284131

石黒 圭 (ISHIGURO, Kei)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・教授
研究者番号: 40313449

館岡 洋子 (TATEOKA, Yoko)

早稲田大学・国際学術院(日本語教育研
究科)・教授
研究者番号: 10338759

柏崎 秀子 (KASHIWAZAKI, Hideko)
実践女子大学・生活科学部・教授
研究者番号：30221873

甲田 直美 (KODA, Naomi)
東北大学・文学研究科・准教授
研究者番号：40303763

桑原 陽子 (KUWABARA, Yoko)
福井大学・語学センター・准教授
研究者番号：30397286

田川 麻央 (Tagawa, Mao)
明海大学・複言語・複文化教育センター・講師
研究者番号：50735363

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。